

天文学とプラネタリウム

第46回



今月のお題

セレブな天文学



天文学研究はとにかくお金のかかるもの。いろんな人との協力でもり天文学を楽しめるようにする方法とは？



www.tenpla.net

高梨直紘 (東大D3/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D3/国立天文台ALMA推進室所属)

巨大望遠鏡とセレブの関係。

最近、アメリカの超裕福な方々が続々と次世代天文台への資金提供を行っています。Intelの創業者ムーア氏の財団が30m望遠鏡TMTに2億ドル、Microsoftのビル・ゲイツ氏がチリに建設予定の望遠鏡LSSTに1000万ドル、など。かたやイギリスでは、政府の科学関連予算を取り仕切る組織がジェミニ望遠鏡への資金協力を取りやめるなどというニュースも出ています。もともとアメリカでは天文学のような基礎科学にも理解を示して援助してくれる人がいて、資金提供をしてくれた人の名前を冠した望遠鏡がたくさんあります。ハワイにある双子のケック望遠鏡、ハッブルが宇宙膨張を見つけた際に使っていたフッカー望遠鏡など。映画「コンタクト」でも、主人公の女性天文学者が資産家に話を持ちかけて研究資金を得る、という場面がありました。装置が巨大化し、政府予算だけでは設置運営が難しくなっているのかもしれません。

日本ではこういうニュースはほとんど聞きま

せん。京都大学が岡山に建設予定の3.8m望遠鏡が数少ない例でしょうか。それだけの大金持ちがいないとか、寄付しても税制的な優遇が得られないとか、そもそも寄付という文化がないとか、いろいろな理由は考えられますが、まずは天文学の面白さを世に言うセレブな方々に知っていただくことから始めないといけなんでしょう。

といってもセレブな生活を送ったことのない筆者にはそういう方たちがどういうところに出没するのか知る由もありません。ここはやはり、セレブ向け天文イベントを企画するに限りです。天プラで以前観望会を開催したことのある調布飛行場で、飛行機オーナー向け観望会あたりがよいでしょうか。あとは、2009年の日本南海での皆既日食を豪華客船で見るツアーとか。さいわいにも、日本最大の豪華客船「飛鳥II」は2009年の世界一周クルーズの最後に小笠原近海で皆既日食を観察する予定だそうです。これに乗ればセレブな皆さんと天文の橋渡しをすることができます。が、費用は最低でも1人400万円。ちょっと大変ですね。天文学のわかるスタッフとして乗せてもらえたら嬉しいのですが。



論文を提出し、天文台の50cm望遠鏡前につくろぐ二人。しかしまだまだ発表が控えています。

あるいは、個人ではなく企業として参加してもらうという手もあるかもしれません。ソフトバンク望遠鏡から携帯にリアルタイム画像が配信されたり、任天堂望遠鏡をWiiで操れたり、JAL機上望遠鏡でいつでも星空を楽しめたり…。企業にとっても私たち天文ファンにとっても楽しい世の中になると思うのですが。

これをお読みの社長さんがいらっしゃったらぜひ検討してみてください。